

## エゼキエル書40-43章「踏み直す神殿」

### 1A 神の宮 40-42

#### 1B 外枠 40

1C 高い山 1-4

2C 門と庭 5-49

1D 東向きの門 5-16

2D 外庭 17-19

3D 他の方角の門 20-27

4D 内庭の門 28-37

5D いけにえのすすぎ清めの台 38-43

6D 歌うたいたちの部屋 44-49

#### 2B 本堂 41

1C 至聖所までの内部 1-4

2C 脇間の部屋 5-11

3C 西側の建物 12-14

4C 装飾 15-20

5C 至聖所の前 21-26

#### 3B 祭司の部屋 42

1C 聖域に面する部屋 1-14

1D 三階建て 1-12

2D 聖なる物 13-14

2C 全体の大きさ 15-20

### 2A 主の栄光 43

#### 1B 宮に満ちる栄光 1-12

1C ケバル川で見た幻 1-5

2C 不義の除去 6-12

#### 2B 祭壇の贖い 13-27

1C 祭壇の寸法 13-17

2C 七日間の全焼のいけにえ 18-27

## 本文

私たちはついに、エゼキエル書の終盤に入っています。イスラエルの君主、土地、国、安全保障、それらの回復の幻を見ていきましたが、最も大切なのは神殿の回復です。8章から10章にあった、神の栄光が神殿から徐々に離れていき、東向きの門を出て行って、そこから去ってしまったと

いう衝撃的な出来事が書かれていました。しかし、主は妬むほど、ご自分の住まわれるところを愛しておられます。今は、私たち教会こそが霊の家であり、私たちが聖なる祭司です。「あなたがたは生ける石として、霊の家に築き上げられなさい。(1ペテロ 2:5)」

## 1A 神の宮 40-42

### 1B 外枠 40

#### 1C 高い山 1-4

40:1 私たちが捕囚となって二十五年目の年の初め、その月の十日、町が占領されてから十四年目のちょうどその日、主の御手が私の上であり、私をそこへ連れて行った。40:2 すなわち、神々しい幻のうちに、私はイスラエルの地へ連れて行かれ、非常に高い山の上に降ろされた。その南のほうに町が建てられているようであった。

時は紀元前 573 年のことです。エゼキエルが捕囚の民としてここに連れて来られたのが 597 年で、神殿が破壊されたのが 586 年です。そして「年の初め、その月の十日」とあります。ユダヤ人にとって過越の祭りの時です。その十日に、家ごとに羊一頭を用意しなさい。そして十四日の夕暮れにそれをほふり、血は門柱と鴨居につけて、肉は家の中で食べなさい。夜中にあなたがたはエジプトを出て行くことになる、と主が言われました(出エジプト 12 章)。その時に、主が神殿の幻を見せ、またいけにえを捧げなさいという命令も行なわれます。

エゼキエルはまだバビロンのケバル川のほとり、ユダヤ人の捕囚の民が共同体をなして住んでいた所にいましたが、以前そうであったように、主の御手が彼の上でありエルサレムの方へ連れて行かれます。そこは「非常に高い山」ですが、イザヤが終わりの日を預言してこう言いました。「2:2-3 終わりの日に、主の家の山は、山々の頂に堅く立ち、丘々よりもそびえ立ち、すべての国々がそこに流れて来る。多くの民が来て言う。『さあ、主の山、ヤコブの神の家に上ろう。主はご自分の道を、私たちに教えてください。私たちはその小道を歩もう。』」主イエスが地上に戻ってこられる時に、天変地異が起こります。地殻変動が起こって、エルサレムの所だけが他のあらゆる所よりも高くなり、そこにエルサレムの町を新しくお立てになります。私たちがこれから見るのは、主の再臨の後に建てられる神殿の幻です。「南のほうに町が建てられている」とありますが、北の部分に神殿を主が建てられます。南のほうの町については、47 章と 48 章に書かれています。

40:3 主が私をそこに連れて行かれると、そこに、ひとりの人がいた。その姿は青銅でできているようであり、その手に麻のひもと測りざおとを持って門のところ立っていた。40:4 その人は私に話しかけた。「人の子よ。あなたの目で見、耳で聞き、わたしがあなたに見せるすべての事を心に留めよ。わたしがあなたを連れて来たのは、あなたにこれを見せるためだ。あなたが見ることをみな、イスラエルの家に告げよ。」

「青銅でできている」とありますが、ケルビムが、青銅の輝きを持って、かつ人の手を有していました。今、測量するための道具を持っています。麻ひもは長距離を測る時、測り竿は短い部分を測る時に使います。主はかつてモーセに対して幕屋を造るのを命じられた時、「あなたに示すのと全く同じように作らなければならない。(出エジプト 25:9)」と言われました。なぜならば、主がモーセに示された事は、建築設計者が見て、実際に建てることのできる詳細な見取り図であったからです。それが天に模られたものであることを、ヘブル書の著者は話しています。ここでも同じです。いや、それ以上でしょう。あまりにも緻密で、美しいほど幾何学的な設計を見ます。例えるなら、京都の平安京のような造り、または雪の結晶のような精密さと言えるでしょうか。主は、その中でご自分の完全な姿、欠けのない聖なる姿を表していると考えられます。



## 2C 門と庭 5-49

次からは、インターネットのサイトに掲載されていた画像を頼りにしながら、読んでいきたいと思  
います。

### 参照サイト

<http://bible.ag/en/enezekieltranscript.htm>

<http://www.sonstoglorry.com/ThirdTempleEzekielsMillennialTemple.htm>

---

<sup>1</sup> <http://meigata->

[boku.shin.secret.jp/index.php?%E6%96%B0%E3%81%97%E3%81%84%E3%82%A8%E3%83%AB%E3%82%B5%E3%83%AC%E3%83%A0%E7%A5%9E%E6%AE%BF%E3%80%80%281%29%20%E9%96%80%E3%81%A8%E5%A4%96%E5%BA%AD%E3%81%A8%E5%86%85%E5%BA%AD](http://boku.shin.secret.jp/index.php?%E6%96%B0%E3%81%97%E3%81%84%E3%82%A8%E3%83%AB%E3%82%B5%E3%83%AC%E3%83%A0%E7%A5%9E%E6%AE%BF%E3%80%80%281%29%20%E9%96%80%E3%81%A8%E5%A4%96%E5%BA%AD%E3%81%A8%E5%86%85%E5%BA%AD)

## 1D 東向きの門 5-16

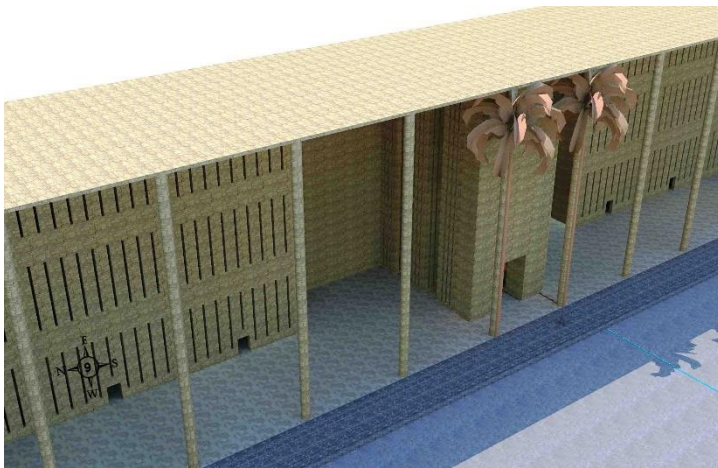
40:5 そこに、神殿の外側を巡って取り囲んでいる壁があった。その人は手に六キュビトの測りざおを持っていた。その一キュビトは、普通の一キュビトに一手幅を足した長さであった。彼がその外壁の厚さを測ると、一さおであり、その高さも一さおであった。

初めに、神殿の外側を巡っている壁です。寸法ですが、一キュビトは、普通は肘から手の先までの長さです。それに加えて一手幅を足したものなので、53.2cm の長さです。測り竿は6キュビトなので、3.19m の長さになります。高さも幅がそれぞれ一さおです。

40:6 それから、彼が東向きの門に行き、その階段を上って、門の敷居を測ると、その幅は一さおで、もう一つの門の敷居も幅は一さおであった。40:7 控え室は長さ一さお、幅一さおであり、控え室と控え室の間は五キュビトであった。門の内側の玄関の間に続く門の敷居は一さおであった。40:8 彼が門の内側の玄関の間を測ると、一さお、40:9 すなわち、門の玄関の間を測ると、八キュビト、その壁柱は二キュビトで、門の玄関の間は内側にあった。40:10 東のほうに ある門の控え室は両側に三つずつあり、三つとも同じ寸法であった。壁柱も、両側とも、同じ寸法であった。40:11 彼が門の入口の幅を測ると、十キュビト、門の内のり幅の長さは十三キュビトであった。40:12 控え室の前に出た仕切りは両側ともそれぞれ一キュビトであった。控え室は両側とも六キュビトであった。40:13 彼がその門を、片側の控え室の屋根の端から他の側の屋根の端まで測ると、一つの入口から他の入口までの幅は二十五キュビトであった。40:14 彼は壁柱を六十キュビトとした。門の周囲を巡る壁柱は庭に面していた。40:15 入口の門の前から内側の門の玄関の間の前までは五十キュビトであり、40:16 門の内側にある控え室と壁柱には格子窓が取り付けられ、玄関の間もそうであった。内側の回りには窓があり、壁柱には、なつめやしの木が彫刻してあった。



これは、外庭の中に入っていく門です。主の栄光が出て行き、そしてこれから入っていく東向きの門です。入る時に敷居があります。そして、控え室が左右三つずつあり、出るところに玄関があります。ですから、中から入って、外に出て行くイメージで造られています。その間に、左右に控え室があります。これは、門衛の立つ場所です。ソロモンが神殿を建てる時に、ダビデが青写真を神から示されていましたが、門衛に付くレビ人たちの組み分けを行ないました(1歴代 26 章)。主の礼拝の備えができていない者たちが守られるように、また備えができていない者たちが入らないようにするためです。主を礼拝することは、もちろん全ての人たちに開かれています。しかし、イエス様の呼ばれる声に応答する者たちこそが、

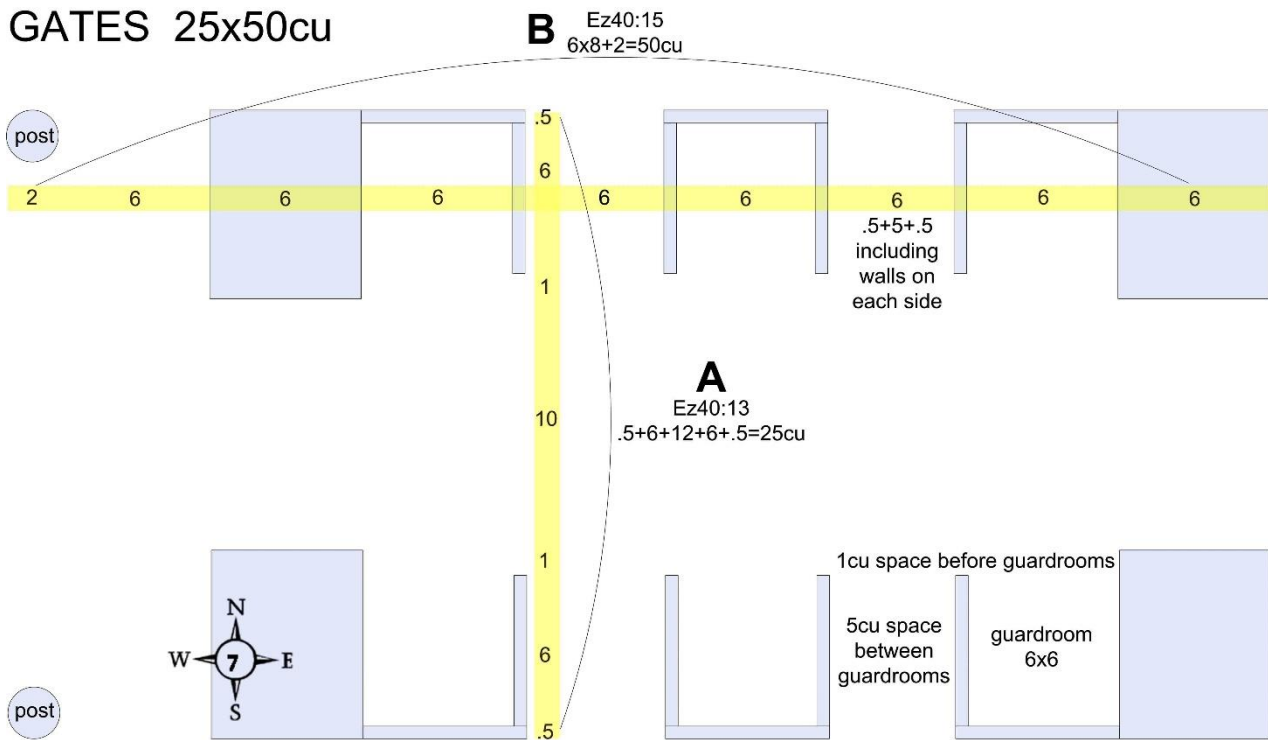


入ることができます。イエス様は、「わたしは羊の門です。」と言われました。

そして門を内側から見た姿です。なつめやしやしが壁柱にありますね。これからなつめやしの木の彫刻が数多く出て来ます。本堂の中は、なつめやしの木とケルビムが掘られています。

そして、寸法についてですが、図にする  
と下のようになります。極めて幾何学的にできていることが分かるでしょう。全体で長さが 50 キュビト、幅が 25 キュビト、そして高さは 60 キュビトです。

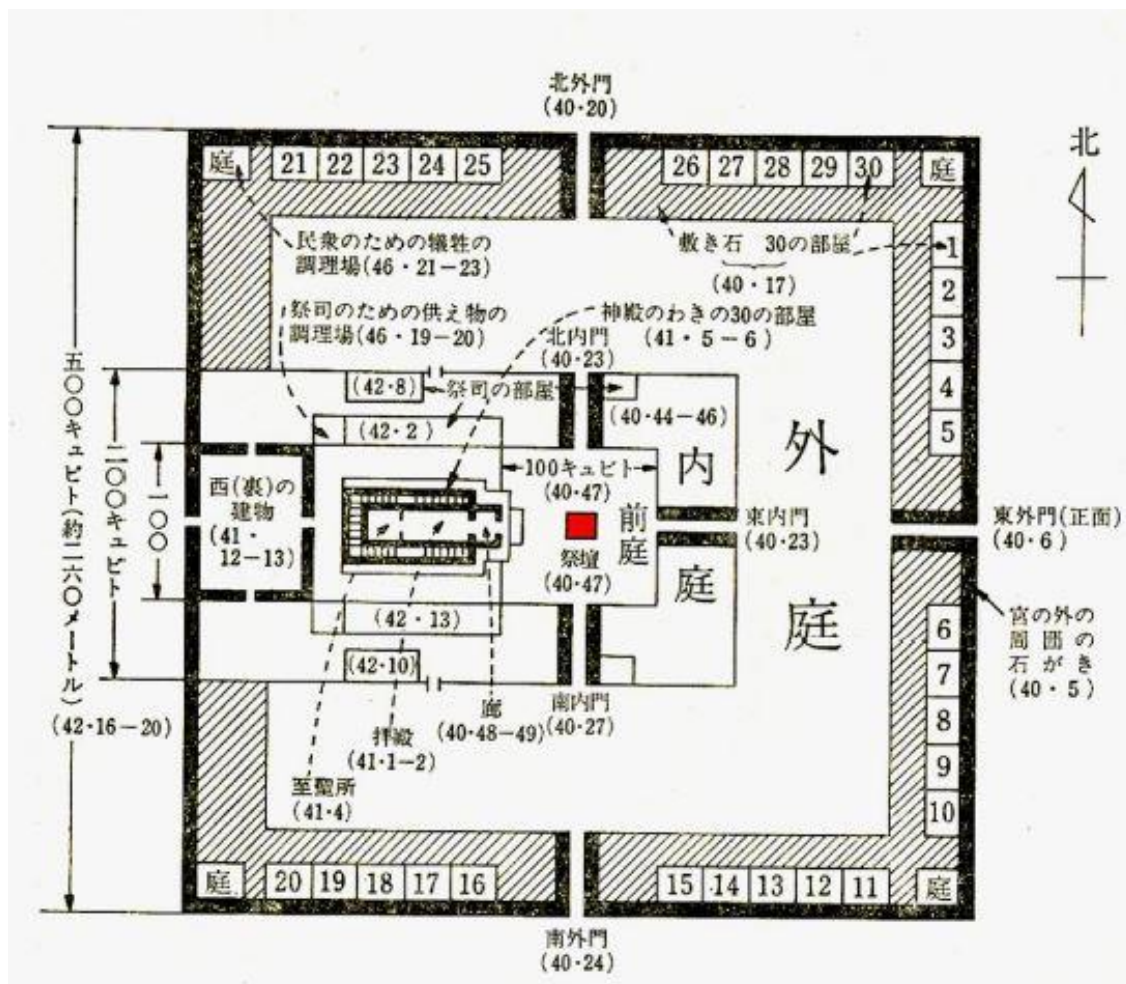
## GATES 25x50cu



### 2D 外庭 17-19

40:17 それから、彼は私を外庭に連れて行った。そこには部屋があり、庭の回りには石だたみが敷かれていた。石だたみの上に、三十の部屋があった。40:18 石だたみは門のわきにあり、ちょうど門の長さと同じであった。これは下の石だたみである。40:19 彼が下の門の端から内庭の外の端までその幅を測ると、東も北も百キュビトであった。

中を見ますと、門の左右には部屋があります。石畳の上であり、東と南北に合計 30 があります。おそらく、礼拝者たちが集まるところ、祭りなどで待機するようなどころであったのでしょう。エレミヤ書において、レバ人の家族がそのような部屋にいて、エレミヤがぶどう酒を飲ませようとしたところ、彼らが断ったという逸話が出て来ます(35:3)。そして、部屋の数 30 は、後で出て来る神殿の脇部屋においても 30 です。



それから、百キュビトというのは、外庭の門から内庭の門の距離のことです。それが東においても、また北においても、また南においても同じ百キュビトです。19 節に、「下の門」という表現がありますが、これは門から外庭に降りる時に 7 段なのに対して、内庭への階段は 8 段になるからです。

### 3D 他の方角の門 20-27

40:20 彼は外庭にある北向きの門の長さ測った。40:21 それには両側に三つずつ控え室があり、壁柱も玄関の間も先の門と同じ寸法であった。その長さは五十キュビト、幅は二十五キュビトであった。40:22 その窓も玄関の間もなつめやしの木の彫刻も、東向きの門と同じ寸法であった。七段の階段を上って行くと、その先に玄関の間があった。40:23 東に面する門と同様に、北に面する門にも内庭の門が向かい合っており、彼が門から門まで測ると、百キュビトであった。

つまりこれまで見た東向きの門とまったく同じものが北にもあります。

40:24 次に、彼は私を南のほうへ連れて行った。すると、そこにも南向きの門があり、その壁柱と玄関の間を彼が測ると、それは、ほかの門と同じ寸法であった。40:25 壁柱と玄関の間の周囲に窓があり、それはほかの窓と同じであった。門の長さは五十キュビト、幅は二十五キュビトであった。40:26 そこに上るのに七段の階段があり、その先に玄関の間があった。その両側の壁柱には、なつめやしの木が彫刻してあった。40:27 内庭には南向きの門があり、彼がこの門から南のほうに他の門まで測ると、百キュビトであった。

南向きの門も東向き、北向きと同じです。

#### 4D 内庭の門 28-37

40:28 彼が私を南の門から内庭に連れて行き、南の門を測ると、ほかの門と同じ寸法であった。40:29 その控え室も壁柱も玄関の間もほかのと同じ寸法で、壁柱と玄関の間の周囲に窓があった。門の長さは五十キュビト、幅は二十五キュビトであった。40:30 玄関の間の周囲は長さ二十五キュビト、幅五キュビトであった。40:31 その玄関の間は外庭に面し、その壁柱にはなつめやしの木が彫刻してあった。その階段は八段であった。

今度は内庭に行きます。内庭に行く門も、東、北、南の外側の門と同じ作りです。今、言いましたように、ここと外庭の門との違いは、階段が八段になっていることです。ですから、礼拝において内庭が少しだけ高くなっているということです。日本語に、礼拝を「参拝」という言葉がありますが、まさにそれを表していますね、礼拝に参るというイメージです。

40:32 次に、彼は私を内庭の東のほうに連れて行った。その門を測ると、ほかの門と同じ寸法であった。40:33 その控え室も壁柱も玄関の間もほかのと同じ寸法で、壁柱と玄関の間の周囲に窓があった。門の長さは五十キュビト、幅は二十五キュビトであった。40:34 その玄関の間は外庭に面し、両側の壁柱にはなつめやしの木が彫刻してあった。階段は八段であった。

内庭の東向きの門も同じ寸法です。

40:35 彼は私を北の門に連れて行った。それを測ると、ほかの門と同じ寸法であった。40:36 その控え室も壁柱も玄関の間もほかのと同じ寸法で、その周囲に窓があった。門の長さは五十キュビト、幅は二十五キュビトであった。40:37 その玄関の間は外庭に面し、両側の壁柱にはなつめやしの木が彫刻してあった。階段は八段であった。

これは内庭の北の門です。そして内庭への北向きの門のそばに、いけにえのための台があります。

#### 5D いけにえのすすぎ清めの台 38-43

40:38 門の壁柱のそばに戸のある部屋があり、そこは全焼のいけにえをすすぎ清める所であった。40:39 門の玄関の間には、全焼のいけにえ、罪のためのいけにえ、罪過のためのいけにえをほふるために、両側にそれぞれ二つずつの台があった。40:40 北の門の入口へ上って行くと、外側に二つの台があり、門の玄関の間の他の側にも二つの台があった。40:41 すなわち、門の片側に四つの台があり、他の側に四つの台があり、この八つの台の上でいけにえをほふるのである。40:42 また、全焼のいけにえのための四つの切り石の台があり、その長さは一キュビト半、幅は一キュビト半、その高さは一キュビトであった。その上に全焼のいけにえや、ほかのいけにえをほふるための道具が置かれていた。40:43 内側には、周囲に一手幅の縁が取りつけてあり、ささげ物の肉は台の上に置かれるようになっていた。



門の両脇に四つずつ台がありますね。これがいけにえのための台です。ここから祭司らは中に入っていく、内庭の中央にある祭壇の上で主にいけにえをささげます。外庭の下の門、そして内庭の門は、三方向すべて、そのまままっすぐ祭壇の方向に向いています。いけにえを捧げることが、いかに礼拝において中心になっているかが分かります。イエス様は、ご自分を仕える姿を取られて、全焼のいけにえとなって捧げてくださいました。そして、キリストにあつて、私たちも聖い、生けるいけにえとして主に捧げするのです(ローマ 12:1)。

ところで、これは将来の神の国における幻です。それなのに、なぜいけにえを捧げるのか?とい



う疑問が出て来ると思います。この幻は主イエス・キリストが再臨されて、神の国をこの地に建てられる時のことだと話しました。それなのになぜ、このようないけにえの制度が存在するのか？という疑問です。キリストが罪のためのいけにえとして十字架の上で死なれました。「ヘブル 9:12 また、やぎと子牛との血によってではなく、ご自分の血によって、ただ一度、まことの聖所にはいり、永遠の贖いを成し遂げられたのです。」とあり、動物のいけにえは廃止されました(10:9)。

しかし、かつて旧約時代に贖いのためにいけにえを捧げたのと、千年王国においていけにえを捧げるのは意味が違います。私たちは、主が命じられたように、過越の食事の一場面であった、パンを食べ、ぶどう酒を飲む時に、主の死を覚えてそれにあずかります。しかし、それは期限付きでありました。「ルカ 22:17-18 そしてイエスは、杯を取り、感謝をささげて後、言われた。「これを取って、互いに分けて飲みなさい。あなたがたに言いますが、今から、神の国が来る時までには、わたしはもはや、ぶどうの実で造った物を飲むことはありません。」イエス様は、神の国が来る前では、わたしはぶどうの実で造った物を飲むことはない、と言われました。なぜなら、死なれて、天に昇られて、今は神の右の座に着いておられるからです。けれども、神の国が始まれば、祝宴があります。そこで主は再び、過越しの祭りにあずかってくださるのです。パウロもこの期限付きを語っています。「1コリント 11:26 ですから、あなたがたは、このパンを食べ、この杯を飲むたびに、主が来られるまで、主の死を告げ知らせるのです。」主が来られるまで、なのです。千年王国においては、主が来られたのですから、聖餐式ではなく、そのまま主への祭りに参加することになります。

ここで大事なのは、かつて旧約時代は、キリストの贖いを将来期待して、そのいけにえを捧げていました。けれども、御国の時代はすでにキリストの贖いが十字架で成し遂げられているのですから、そのことを記念して、行なうのです。自分の罪はすでに十字架で贖われました。贖われるための動物のいけにえの制度は廃止されました。けれども、キリストの贖いの記念を、主への祭りの中で、動物のいけにえの中で行なうのです。旧約時代と意味が変わるのです。

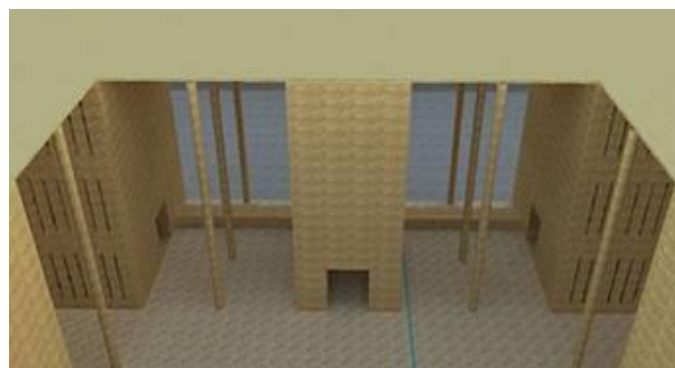
私たちはこれから、エゼキエル書で次々と、モーセの律法の中にあるいけにえの制度や、祭司の制度などと似たような命令を多く見ます。けれども、これは旧約時代に戻るということではありません。そうではなく、千年王国というのは、これまでイスラエルが神の前に失敗してきたこと、行なってこなかったことなど、**踏み直す**ことができるようにするためのものでもあります。「踏み直し」とは何か？それは、イスラエル人が神から与えられた恵みに応答せず、失敗したところを改めて行うことです。ダビデに与えられた王国が、イスラエル人の不従順で台無しになりました。七十年後にエルサレムに帰還し、神殿を再建しました。けれども、イエス様が来られた時は、大祭司らが富の惑わしや、自分の地位を確保するため、この方をローマの十字架に付けてしまいました。それで、ローマに捕え移されたのです。

けれども、イエス様が再臨されて、今、第三の神殿を建ててくださいます。後で読みますが、こ

には至聖所には契約の箱も、贖いの蓋もありません。イエス・キリストご自身が贖いの実体として、そこに着座されるのです。ですから、再び贖われるためにこれらのことを行うではありません。むしろイスラエル人が、メシヤなるイエスこそが自分たちの王ダビデあり、この方の裂かれた肉、流された血にあって、いけにえは完成されたことを覚えるために、改めていけにえを捧げ直すのです。これは喩えれば、バプテスマのようなものでしょう。幼児洗礼であったり、ただ親に言われたから受けた洗礼であったところを、イエス様を本当に知って、この方の死と甦りにあずかるのだ、という信仰をもって、もう一度受けたいというのに似ています。

#### 6D 歌うたいたちの部屋 44-49

40:44 彼は私を内庭に連れて行った。内庭には二つの部屋があり、北の門のわきにある部屋は南を向き、南の門のわきのは北を向いていた。40:45 彼は私に言った。「この南向きの部屋は、宮の任務を果たす祭司たちのためであり、40:46 北向きの部屋は、祭壇の任務を果たす祭司たちのためである。彼らはツアドクの子孫であり、レビの子孫の中で主に近づいて仕える者たちである。」

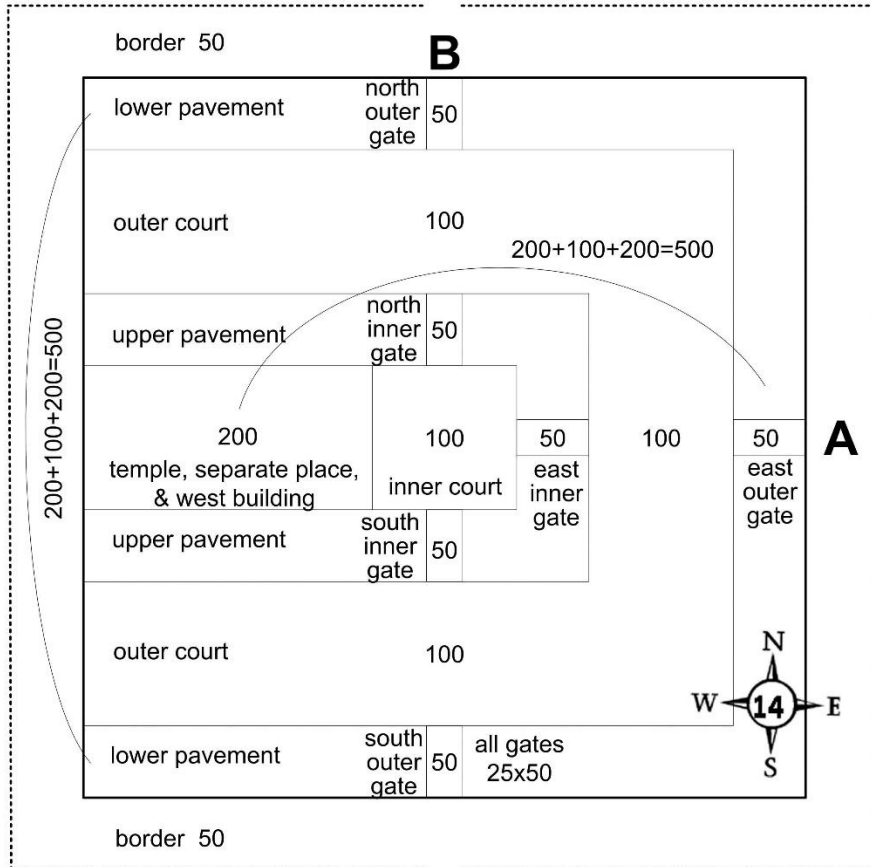


新改訳は「二つの部屋(44 節)」と訳していますが、下にある引照の説明をご覧ください。この訳は七十人訳から来たものであり、ヘブル語は「歌を歌う者たちの部屋」であるという説明書きがあります。これは内庭の東向きの門をから見たものですが、その左右に北向きの門の脇と南向きの門の脇に部屋があります。これが歌うたいたちの部屋です。それぞれ宮の任務、祭壇の任務を果たすためではありますが、歌うたいもその奉仕の一つです。東向きの門から本堂である聖所に入るに当たって、ここで絶えず主への歌が歌われているのです。賛美の歌というものが、いかに主にとって重要なものか、神を喜ばせるものであるかが分かります。

40:47 彼が庭を測ると、長さ百キュビト、幅百キュビトの正方形であった。神殿の前には祭壇があった。

真ん中に祭壇があります。そして内庭は再び 100 キュビトの正方形です。ここで改めて、神殿全体の形を確かめると、幾何学的な姿が鮮やかに出て来ます。内庭が 100 キュビトですが、これから見ていく本堂や西側の建物を合わせたのが 200 キュビト。そして、内庭の門と外庭の門、また外庭そのものを合わせたのが 200 キュビト。ですから西から東へ一直線を結ぶと 500 キュビトになります。同じように南北も北から、外庭の門、外庭、内庭の門で 200 キュビト、内庭が 100 キュビト、そして南も内庭の門、外庭、外庭の門で合計 500 キュビトになります。正方形、あるいは二対一の長方形のいずれかになっています。新しいエルサレムでは、立方体の都が出て来ます。

# TEMPLE COMPOUND 500x500cu with 50cu BORDER



40:48 彼が私を神殿の玄関の間に連れて行って、玄関の間の壁柱を測ると、両側とも五キュビトであり、その門の幅は十四キュビト、その門の両わきの壁は、それぞれ三キュビトであった。40:49 玄関の間の間口は二十キュビト、奥行は十二キュビトであった。そこへ上るのに階段があり、両側の壁柱のそばにはそれぞれ円柱が立っていた。

ここからエゼキエルは、本堂、すなわち聖所へ導かれます。入口に玄関があります。そしてここにも階段があります。少し高くなっています。

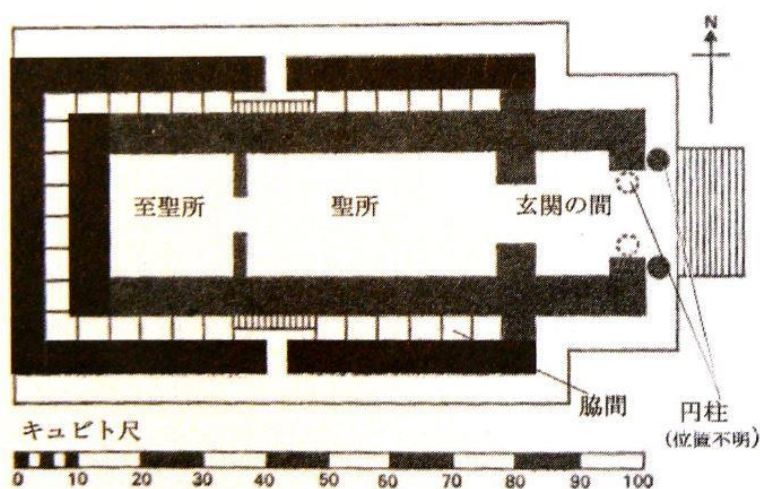
## 2B 本堂 41

### 1C 至聖所までの内部 1-4

41:1 彼は私を本堂へ連れて行った。その壁柱を測ると、その幅は両側とも六キュビトであった。これが壁柱の幅であった。41:2 入口の幅は十キュビト、入口の両わきの壁はそれぞれ五キュビトであり、本堂の長さを測ると、四十キュビト、幅は二十キュビトであった。41:3 彼が奥にはいり、入口の壁柱を測ると、二キュビト、入口は六キュビト、入口の両わきの壁は七キュビトであった。41:4

彼はまた、本堂に面して長さ二十キュビト、幅二十キュビトを測って、私に「これが至聖所だ。」と言った。

本堂は長さ 40 キュビト、幅 20 キュビトですから、二対一の寸法です。これはモーセの幕屋の聖所の寸法と同じです。そしてさらに奥に行きますと、そこが至聖所に入る入口です。そして、そこに契約の箱や贖いの蓋があるような説明は一切ありません。聖所のほうも、供えのパンの机も燭台もないです。主の栄光がここに宿り、イエス様ご自身がここに着座されるのですから、必要ないのです。

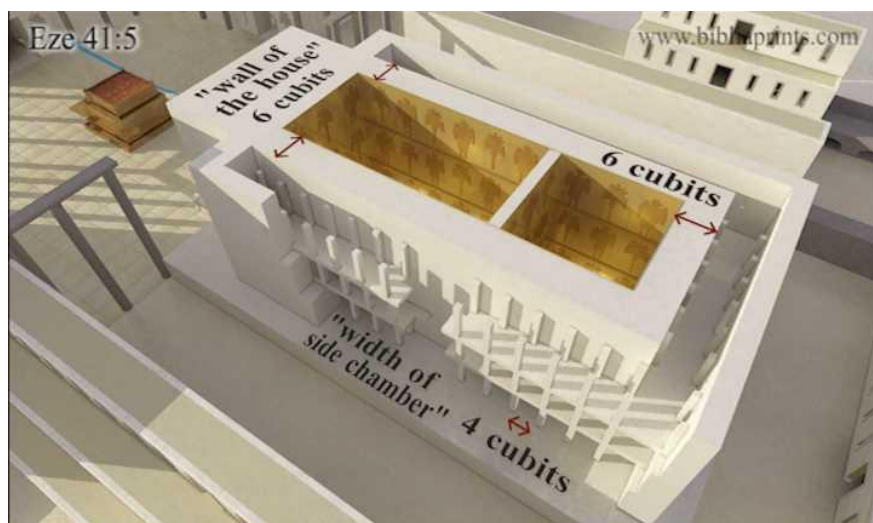


(Inter-Varsity Press 提供)

ところで、本堂は入口から入る時に、初め玄関に入る時は 14 キュビト(40:48)、本堂の入口は 10 キュビト(41:3)、そして至聖所に入る時は 6 キュビトになっています。ですから、次第に門が狭くなっており、「狭い門から入りなさい」という主の言葉を思います。

### 2C 脇間の部屋 5-11

41:5 彼が神殿の壁を測ると、六キュビト、神殿の周囲を囲む階段式の脇間の幅は四キュビトであった。  
41:6 階段式の脇間は三段に重なり、各段に三十あった。神殿の周囲の階段式の脇間は壁に固定してささえられ、神殿の壁は梁でささえられていなかった。  
41:7 階段式の脇間の幅は階段を上げるごとに広がっていた。それは神殿の周囲



にあるらせん階段を上げるごとに、その段の幅も広くなり、その下の段から上の段へは中央の階段を通過して上るのである。  
41:8 私は神殿の回りが高くなっているのを見た。階段式の脇間の土台は、長めの六キュビトの測りざおっぱいであった。  
41:9 階段式の脇間の外側の壁の厚さは五キュビトであった。神殿の階段式の脇間と、  
41:10 部屋との間には空地があり、それが神殿の周囲を幅二十キュビトで囲んでいた。  
41:11 階段式の脇間の入口は空地のほうに向き、一つの入口は北向きで、他の入口は南のほうに向き、その空地は幅五キュビトで周囲を囲んでいた。

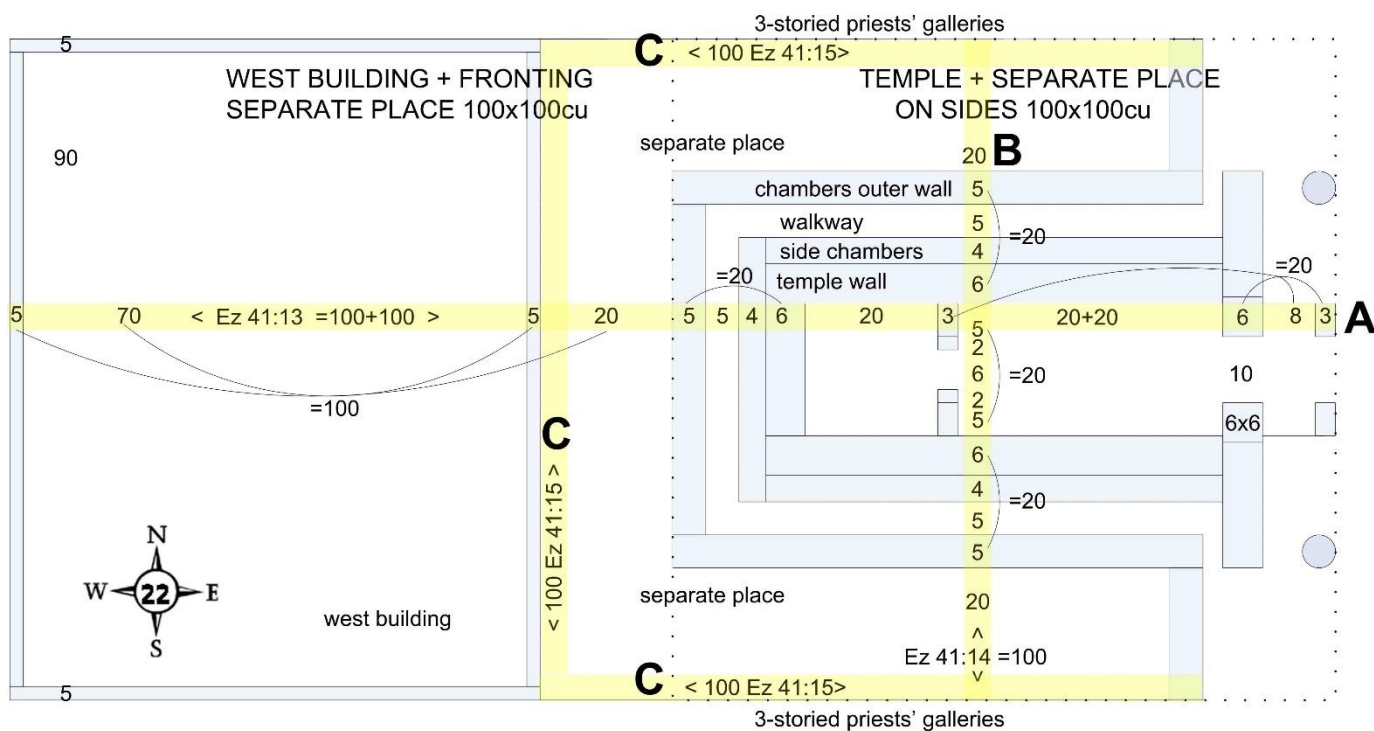
ソロモンの神殿と同じように、神殿の南北には脇間がくっ付いています。脇間は三段式になっていますが、梁を入れていません。それでも倒れないでぴったりと神殿の壁にくっ付いていられるように、段々を付けています。ここは、祭司が礼拝で使う時に必要なものや、イスラエルの民の捧げ物、献金などが収められていたのではないかと思います。マラキ書 3 章 10 節に、「十分の一をことごとく、宝物倉に携えて来て、わたしの家の食物とせよ。」とあります。私たちが献金をする時というのは、まさに主に対するもの、主のところに蓄えられるものであることが分かりますね。そして、脇部屋は「三十」あります。外庭の周囲の部屋も三十ありました。レビ人の奉仕も 30 歳からです。そしてイエス様の公生涯はおよそ 30 歳からでした。

そして地面は、五キュビトを空けて壁が周囲を囲んでいます。そしてその壁の外側に二十キュビトの空き地があります。

### 3C 西側の建物 12-14

41:12 西側の聖域にある建物は、その奥行が七十キュビト、その建物の回りの壁は、厚さ五キュビト、その間口は九十キュビトであった。41:13 彼が神殿を測ると、長さは百キュビト、その聖域と建物とその壁とで、長さ百キュビトであった。41:14 また、東側の聖域と神殿に面する幅も百キュビトであった。

西側には大きな建物があります。神殿に最も近いところなので「聖域」と呼ばれています。そして、西側の建物から神殿の周囲ある壁までが百キュビト、神殿の玄関から周囲の壁までが百キュビト、さらに南北に空地を入れて神殿の寸法測ると百キュビトです。非常に幾何学的な作りです。



#### 4C 装飾 15-20

41:15 彼が神殿の裏にある聖域に面した建物の長さ、両側の回廊とを測ると、百キュビトであった。本堂の内側と、庭の玄関の間、41:16 門口と格子窓と三段になった回廊とは、床から窓まで羽目板が張り巡らされていた。また、窓にはおおいがあった。41:17 入口の上部にも、神殿の内側にも外側にも、これを囲むすべての壁の内側にも外側にも彫刻がしてあり、41:18 ケルビムと、なつめやしの木とが彫刻してあった。なつめやしの木はケルブとケルブとの間にあり、おのおのケルブには二つの顔があった。41:19 人間の顔は一方のなつめやしの木に向かい、若い獅子の顔は他方のなつめやしの木に向かい、このように、神殿全体の回りに彫刻してあった。41:20 床から入口の上まで、本堂の壁にケルビムとなつめやしの木が彫刻してあった。

装飾についての説明です。本堂の中はすべて、ケルビムとなつめやしの木の彫刻が施されています。ケルビムの幻について思い出してください、四つの顔がありましたね。ここではその内の二つの顔です。幻ではその上に主が御座に着いておられました。そして「なつめやしの木」です。門にもなつめやしの木の門柱がありました。内庭と外庭の門の玄関にも、なつめやしの木がありこれは、イエス様が王なるキリストであることを表しています。今、エゼキエルが過越の祭りの月の十日にこの幻を見ていることを思い出してください。イエス様が十字架につけられたのは過越の祭りの日でしたが、十日は棕櫚の聖日でした。その時に主がエルサレムに入城されて、群集が、主が通られる道のところになつめやし等の枝を敷いて、「ホサナ！」と叫んでメシヤとして迎え入れたのです。

#### 5C 至聖所の前 21-26

41:21 本堂の戸口の柱は四角で、至聖所の前には何かに似たものがあった。41:22 それは木の祭壇のようであり、高さは三キュビト、長さは二キュビトで、その四隅も台も側面も木でできていた。彼は私に、「これが主の前にある机だ。」と言った。

これはちょうど、モーセの幕屋とソロモンの神殿においては香壇のあった所です。けれども単純に木でできた机のみがあります。先ほど言いましたように、この聖所は主ご自身がおられるから、贖いの実体であられるイエス・キリストがここに入られるからです。エレミヤ書 3 章 16-17 節には、契約の箱を必要としない預言があります。「その日、あなたがたが国中にふえて多くなるとき、.. 主の御告げ。.. 彼らはもう、主の契約の箱について何も言わず、心にも留めず、思い出もせず、調べもせず、再び作ろうともしない。そのとき、エルサレムは『主の御座』と呼ばれ、万国の民はこの御座、主の名のあるエルサレムに集められ、二度と彼らは悪いかたくなな心のままに歩むことはない。」

41:23 また、本堂と至聖所にそれぞれ二つのとびらがあり、41:24 それらのとびらにはそれぞれ二つの戸が折りたたむようになっていた。すなわち、一つのとびらには二つの戸があり、ほかのと

びらにも二つの戸があった。41:25 本堂のとびらには、壁に彫刻されていたのと同じようなケルビムとなつめやしの木が彫刻してあった。外側の玄関の間の前には木のひさしがあった。41:26 玄関の間の両わきの壁には格子窓となつめやしの木があり、神殿の階段式の脇間とひさしも同様であった。

本堂と至聖所の間には戸があります、そして本堂の入口にも扉があります。

### 3B 祭司の部屋 42

#### 1C 聖域に面する部屋 1-14

#### 1D 三階建て 1-12

42:1 彼は私を北のほうの外庭に連れ出し、聖域に面し、北方の建物に面している部屋へ連れて行った。42:2 その長さは百キュビト、その端に北の入口があり、幅は五十キュビトであった。42:3 二十キュビトの内庭に面し、外庭の石だたみに面して、三階になった回廊があった。42:4 部屋の前に



は幅十キュビトの通路が内側にあり、その長さは百キュビトであった。その部屋の入口は北に向いていた。42:5 上の部屋は、回廊が場所を取ったので、建物の下の部屋よりも、また二階の部屋よりも狭かった。42:6 なぜなら、これらは三階建てであり、庭の柱のような柱がないためである。それで、上の部屋は下の部屋よりも、また二階の部屋よりも狭かった。42:7 部屋に沿った外側の石垣は、外庭のほうにあって、部屋に面し、その長さは五十キュビトであった。42:8 したがって、外庭に面する部屋の長さは五十キュビトであった。しかし、本堂に面する側は百キュビトであった。42:9 これらの部屋の下には、外庭からはいれるように、東側に出入口があった。42:10 聖域や建物に面している南側の庭の厚い石垣の中には、部屋があった。42:11 その部屋の通路は、北側の部屋と同じように見え、長さも同じ、幅も同じで、そのすべての出口も構造も入口も、同様であった。42:12 南側の部屋の入口も同様で、通路の先端に入口があり、東側の石垣に面し、そこからはいれる通路があった。

本堂の両側、南北にそれぞれ部屋があります。三階建てになっています。ちょっと分かりにくいかもしれませんが、その建物は二重になっています。

### 2D 聖なる物 13-14

42:13 彼は私に言った。「聖域に面している北の部屋と南の部屋は、聖なる部屋であって、主に

近づく祭司たちが最も聖なるささげ物を食べる所である。その場所は神聖であるから、彼らはそこに最も聖なる物、すなわち穀物のささげ物、罪のためのいけにえ、罪過のためのいけにえを置く。42:14 祭司たちは聖所にはいったなら、そこから外庭に出てはならない。彼らが奉仕に用いる服は神聖だから、それを脱いで他の服に着替えてから民の所に近づかなければならない。」

ここに、南北の部屋の目的が書かれています。聖なる物を食べる部屋です。レビ記に詳しく書かれています。彼らが食べるのは腹を膨らませるためではなく、主への礼拝の一部です。ちょうど私たちが聖餐式でパンとぶどう酒に与るように、彼らもそれらを食べることによって主と交わります。そして着物を着替えます。私たちがまた、古い人を脱ぎ捨てて、キリストにある新しい人を身につけるという作業が必要です(エペソ4:22-24)。私たちは、霊の家に築かれた聖なる祭司ですから、主の聖なるものをにあずかっていく者たちであり、世から別たれています。

### 2C 全体の大きさ 15-20

42:15 彼は、神殿の内側を測り終えると、東向きの門に私を連れ出し、神殿の周囲を測った。42:16 彼が測りざおで東側を測ると、測りざおで五百さおであった。42:17 北側を測ると、測りざおで五百さおであった。42:18 南側を測ると、測りざおで五百さおであった。42:19 彼が西側に回って測りざおで測ると、五百さおであった。42:20 彼が外壁の回りを巡って四方を測ると、その長さは五百さお、幅も五百さおで、聖なるものと俗なるものとを区別していた。

神殿の外側の壁全体の距離をエゼキエルが測りました。500 さお、つまり約 1600 メートルの正方形です。そしてその目的が、「聖なるものと俗なるものの区別」です。レビ記の中に、11 章から 15 章まで食物、不浄の血、らい病などについての規定があります。そこに 10 章で、「聖なるものと俗なるもの、また汚れたものときよいものを区別するため(10 節)」とあります。主がおられるところには必ずこの区別があります。主はすべての人を愛しておられます。けれども汚れたものをそのまま受け入れることは決してできません。天のエルサレムにおいても、黙示録 21 章、22 章で明確に、汚れた者がこの都に入ることはできないと但し書きが付いています。

### 2A 主の栄光 43

#### 1B 宮に満ちる栄光 1-12

#### 1C ケバル川で見た幻 1-5

43:1 彼は私を東向きの門に連れて行った。43:2 すると、イスラエルの神の栄光が東のほうから現われた。その音は大水のとどろきのようであって、地はその栄光で輝いた。43:3 私が見た幻の様子は、私がかつてこの町を滅ぼすために来たときに見た幻のようであり、またその幻は、かつて私がケバル川のほとりで見たと同じようでもあった。それで、私はひれ伏した。43:4 主の栄光が東向きの門を通過して宮にはいつて来た。43:5 霊は私を引き上げ、私を内庭に連れて行った。なんと、主の栄光は神殿に満ちていた。



栄光の主が戻ってこられました。これがエゼキエル書全体の中心部分です。エゼキエルが、「幻の様子は、私がかつてこの町を滅ぼすために来たときに見た幻のようであり」と言っていますね。1章から3章までに現われた主ご自身であります(1章 26-28節)。そしてケルビムの上に座しておられる主は、至聖所から東向きの門を通過して徐々に離れられました。神殿の敷地で偶像礼拝を行ない、汚れを行なっている祭司たち、長老たちがいたからです。これまで見てきた、本堂の玄関、そして内庭の東向きの門、そして外庭の東向きの門を通られ、外に出られたのです。11章 22節から読みます。「ケルビムが翼を広げると、輪もそれと一しょに動き出し、イスラエルの神の栄光がその上のほうにあった。主の栄光はその町の真中から上って、町の東にある山の上にとどまった。また、霊が私を引き上げ、神の霊によって幻のうちに私をカルデアの捕囚の民のところへ連れて行った。そして、私が見たその幻は、私から去って上って行った。(22-24節)」

それから主の栄光がエルサレムから去ってしまいました。ではいつ戻ってくるのか？それがこれです。主が東のオリーブ山に戻ってこられ、東向きの門から入って、一直線に歩かれて、そして至聖所で着座されます。ゼカリヤ書 14章 4節は、再臨の主はオリーブ山に立たれることを教えています。使徒の働き 1章で、主がオリーブ山で昇天された時も白い衣を着た二人が、「(イエスは)店に上って行かれるのをあなたがたが見たときと同じ有様で、またおいでになります。(1:11)」と言ったのを思い出してください。

## 2C 不義の除去 6-12

43:6 ある人が私のそばに立っているとき、私は、神殿からだれかが私に語りかけておられるのを聞いた。43:7 その方は私に言われた。「人の子よ。ここはわたしの玉座のある所、わたしの足の踏む所、わたしが永遠にイスラエルの子らの中で住む所である。イスラエルの家は、その民もその王たちも、もう二度と、淫行や高き所の王たちの死体で、わたしの聖なる名を汚さない。43:8 彼らは、自分たちの門口をわたしの門口のそばに設け、自分たちの戸口の柱をわたしの戸口の柱のかたわらに立て、わたしと彼らとの間には、ただ壁があるだけとなり、彼らの忌みきらうべきわざによってわたしの聖なる名を汚した。そこでわたしは怒って、彼らを絶ち滅ぼした。43:9 今、彼らにその淫行や王たちの死体をわたしから遠く取り除かせなければならない。わたしは永遠に彼らの中に住もう。

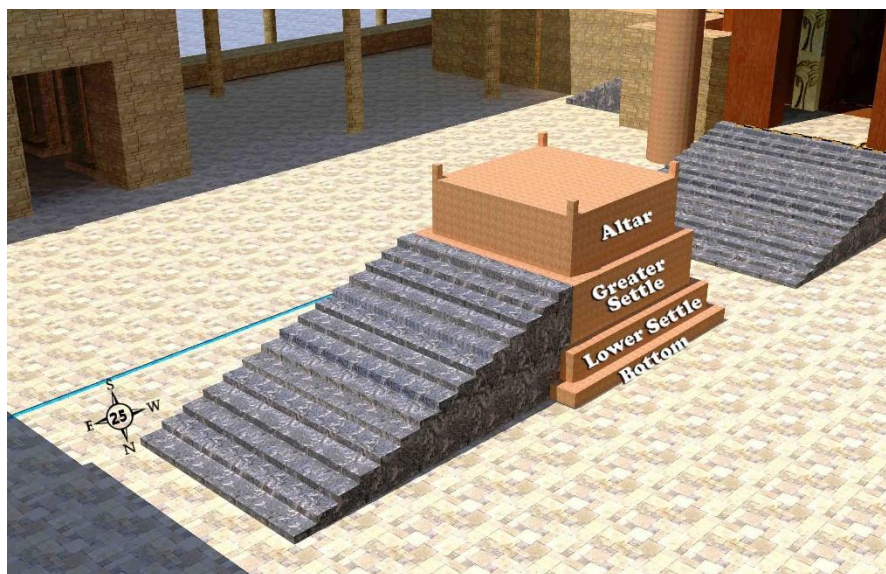
エルサレムの神殿と町を破壊された主は、完全に回復の御業を行なったださっています。この幻の目的はこれです。彼らが二度と、汚れた行いをする事のないようにするためです。先ほど言いましたように、彼らはここで汚れたことを行なっていました。エゼキエルが壁の穴を開けて、そこから入ると、イスラエルの長老たちがあらゆる忌まわしい偶像崇拝を行っていました(8:7-13)。そのようなことは、もう二度とやらないと言われます。すばらしい約束は、「永遠に彼らの中に住もう」です。「永遠」という言葉には、もう二度と主が離れることはないという絶対的な保証があります。

43:10 人の子よ。イスラエルの家が自分たちの不義を恥じるために、彼らに神殿を示し、彼らにその模型を測らせよ。43:11 もし彼らが、自分たちの行なったあらゆることを恥じるなら、あなたは彼らに神殿の構造とその模型、その出口と入口、すなわち、そのすべての構造、すべての定め、すべての構造、すべての律法を示し、彼らの目の前でそれを書きしるせ。彼らが、そのすべての構造と定めとを守って、これを造るためである。43:12 宮に関する律法は次のとおりである。山の頂のその回りの全地域は最も神聖である。これが宮に関する律法である。

この完全な神殿の姿を見るときに、私たちは自分の汚れを恥じます。なんでこんな恥ずかしいことを行なったのだろう、と後悔します。私たちはいつもこのように主の前に出て、自分がどのような存在なのかを知り、そして主がそのような汚れから私たちを清められたことを感謝しなければいけません。

## 2B 祭壇の贖い 13-27

### 1C 祭壇の寸法 13-17



43:13 キュビトによる祭壇の寸法は次のとおりである。このキュビトは、普通のキュビトに一手幅足したものである。この土台の深さは一キュビト、その回りの縁の幅は一キュビト、みぞは一あたりである。祭壇の高さは次のとおりである。43:14 この地面の土台から下の台座までは二キュビト、回りの

幅は一キュビト。この低い台座から高い台座までは四キュビト、その回りの幅は一キュビト。43:15 祭壇の炉は高さ四キュビトであり、祭壇の炉から上のほうへ四本の角が出ていた。43:16 祭壇の炉は長さ十二キュビト、幅十二キュビトの正方形である。43:17 その台座は長さ十四キュビト、幅十四キュビトの正方形で、その回りのみぞは半キュビト、その縁は一キュビトであり、その階段は東に面している。」

ここから祭壇の説明です。ついに、主への礼拝の活動が始動します。これは、内庭の真ん中にあります。四段式になっています。ところで、ここでの祭壇のヘブル語は、アリエルという言葉に近いハレエルです。アリエルは、「神の獅子」という意味であり、まさにイエス様がユダの獅子と呼ば

れるように、この方を指し示す祭壇となっています。

### 2C 七日間の全焼のいけにえ 18-27

43:18 彼は私に言った。「人の子よ。神である主はこう仰せられる。祭壇の上で全焼のいけにえをささげ、血をそれに注ぎかけるために祭壇を立てる日には、次のことが祭壇に関する定めとなる。43:19 わたしに仕えるために、わたしに近づくツアドクの子孫のレビ人の祭司たちに、あなたは、罪のためのいけにえとして若い雄牛一頭を与えよ。・・神である主の御告げ。・・43:20 あなたは、その血を取って、祭壇の四本の角と、台座の四隅と、回りのみぞにつけ、祭壇をきよめ、そのための贖いをしなければならない。43:21 またあなたは、罪のためのいけにえの雄牛を取り、これを聖所の外の宮の一定の所で焼かなければならない。

祭壇を用いるにあたって、この祭壇を清める儀式を行ないます。これはモーセの幕屋においても行なわれたことです(出エジプト 29:38-46)。初めに、罪のためのいけにえを捧げます。それを、祭壇の四隅と周りの溝に付けます。こうやって罪を清めるのですが、イエス様の流された血こそがこれらの罪を取り除きます。

そしてツアドクの祭司がこれらを行うのだということですが、それは、ダビデ王国の踏み直しをするためです。ダビデの祭司エブヤタルが、ダビデの息子アドニヤの謀反に加担しました。「1列王 1:7-8 彼はツェルヤの子ヨアブと祭司エブヤタルに相談をしたので、彼らはアドニヤを支持するようになった。しかし、祭司ツアドクとエホヤダの子ベナヤと預言者ナタン、それにシムイとレイ、および、ダビデの勇士たちは、アドニヤにくみしなかった。」そしてソロモンは、彼を罷免しました。そして、ツアドクに受け継がせたのです。しかし、ここにはもっと深い歴史がありました。「2:27 こうして、ソロモンはエブヤタルを主の祭司の職から罷免した。シロでエリの家族について語られた主のことはこうして成就した。」エブヤタルは、エリの子孫でした。エリの子孫は断たれると、主が語っておられたことが、ソロモンの時代に実現したのです。しかし、そのツアドクの子孫でさえ、バビロンによって捕え移されていきました。それで神が、ソロモンより優れた方キリストによって、その祭司の務めの踏み直しをしてくださるのです。

43:22 二日目に、あなたは、傷のない雄やぎを罪のためのいけにえとしてささげ、雄牛できよめたように、祭壇をきよめよ。43:23 きよめ終えたら、あなたは、傷のない若い雄牛と群れのうちの傷のない雄羊とをささげよ。43:24 あなたは、それらを主の前にささげ、祭司たちがそれらの上に塩をまき、全焼のいけにえとして主にささげなければならない。43:25 七日間、あなたは毎日、罪のためのいけにえとして雄やぎをささげ、傷のない若い雄牛と群れのうちの傷のない雄羊とをささげなければならない。43:26 七日間にわたって祭壇の贖いをし、それをきよめて使い始めなければならない。43:27 この期間が終わり、八日目と、その後は、祭司たちが祭壇の上で、あなたがたの全焼のいけにえと和解のいけにえとをささげなければならない。そうすれば、わたしはあなたがた

を受け入れる。・・神である主の御告げ。・・」

この二頭ずつのいけにえを七日間行ない、それで贖いが完成します。そうすれば約束があり、「わたしはあなたがたを受け入れる」です。罪の赦しと十分な献身こそが、祭壇に現れていることです。次回は、この中におけるいけにえについて学びます。そして興味深い人物「君主」が出てきます。彼が誰であるかも次回、取り組んでみたいと思います。

(あとがき)

以下のサイトに行けば、神殿についての動画説明、そしてソフトを導入して自分自身で 3D 映像を操作することができます。

[Video Tour of the Future Temple and Messianic Kingdom as Described in Ezekiel Chapters 40-48](#)